



# 平和のつどい(にじ組)



R4. 8. 9(火)



77年前の8月9日午前11時2分、長崎に原子爆弾(ファットマン)が投下されました。一発の原子爆弾投下によって、長崎の地が焼け野原となり、多くの方が犠牲になりました。コロナ禍ですので、地域の方をお招きすることはできませんでしたが、にじ組の子どもたちで「戦争」「平和」について、考えてみました。

まずは、平和公園にある「平和記念像」や「平和の泉」の写真を見ながら、どのような意味があるのか、77年前に、どのようなことが起きたのか、先生のお話を聞きました。そして、山王神社の「被爆クスノキ」や浦上天主堂の「アンジェラスの鐘」についても、写真を見ながら、子どもたちは、真剣な目で話を聞いていました。その後は「ながさきの子うま」という平和学習のDVDをみました。



長崎を舞台にした15~20分ほどのお話です。戦時下に子うまが生まれます。母馬は生まれたばかりの子うまの幸せを願いますが、その矢先に、長崎に原爆が投下されます。長崎の地が焼け野原になり、たくさんの方が亡くなり、子うまのお母さんも亡くなりました。「なんで、戦争をするんだろう」「お家の人やたくさんの方が亡くなったら、悲しい」「自分たちは、こんな悲しいことにはなあってほしくない」「けんかをして、お互いに“ごめんなさい”と許しあうことも大切なこと」…、子どもたち一人ひとりが「もう二度と、戦争はしたらいけない」と、それぞれに考えていたようです。最後に、西山台の子どもたちの「平和宣言」をして、会を終えました。お話が終わった後も、自分たちで写真を見に行ったり、子ども達同士で、知っていることについて話をしました。戦争がない平和な世界になることを願い、長崎にいる一人として「平和の大切さ」について、子ども達自身が、自分が聞いたことや感じたこと、学んだことを伝えてくれるようになることを願っています。

